



ペットにも心(気持ち)がある

人間には「うれしい」「かなしい」「さびしい」などさまざまな感情(気持ち)があり、それを言葉で伝えたり表情で表したりします。犬は人間の言葉を話すことができませんが、身体(からだ)のいろいろな部分を使って感情表現を行います。下の6つのイラストを見て、それぞれの犬が、今どんな気持ちなのかを想像してみましょう。

かんさつ 観察のポイント

顔の表情だけではなく、シッポや耳、口の動きを観察してみましょう。

《シッポ》

A (立っている), B (巻き込んでいる), C (伸ばしている).

《耳》

A (立っている), B (寝かせている), C (後ろに倒れている).

《口》

A (閉じている), B (開いている), C (歯を見せている), D (舌を出している).

例

たの うれしい
よろこ 喜んで
お 落ちついて

わーい、うれしいな!

《シッポ》 《耳》 《口》

A A B

1

観察のポイントをよく見て、犬の今の気持ちを書き込んでみてね!

《シッポを観察する》

2

《耳を観察する》

3

《口を観察する》

4

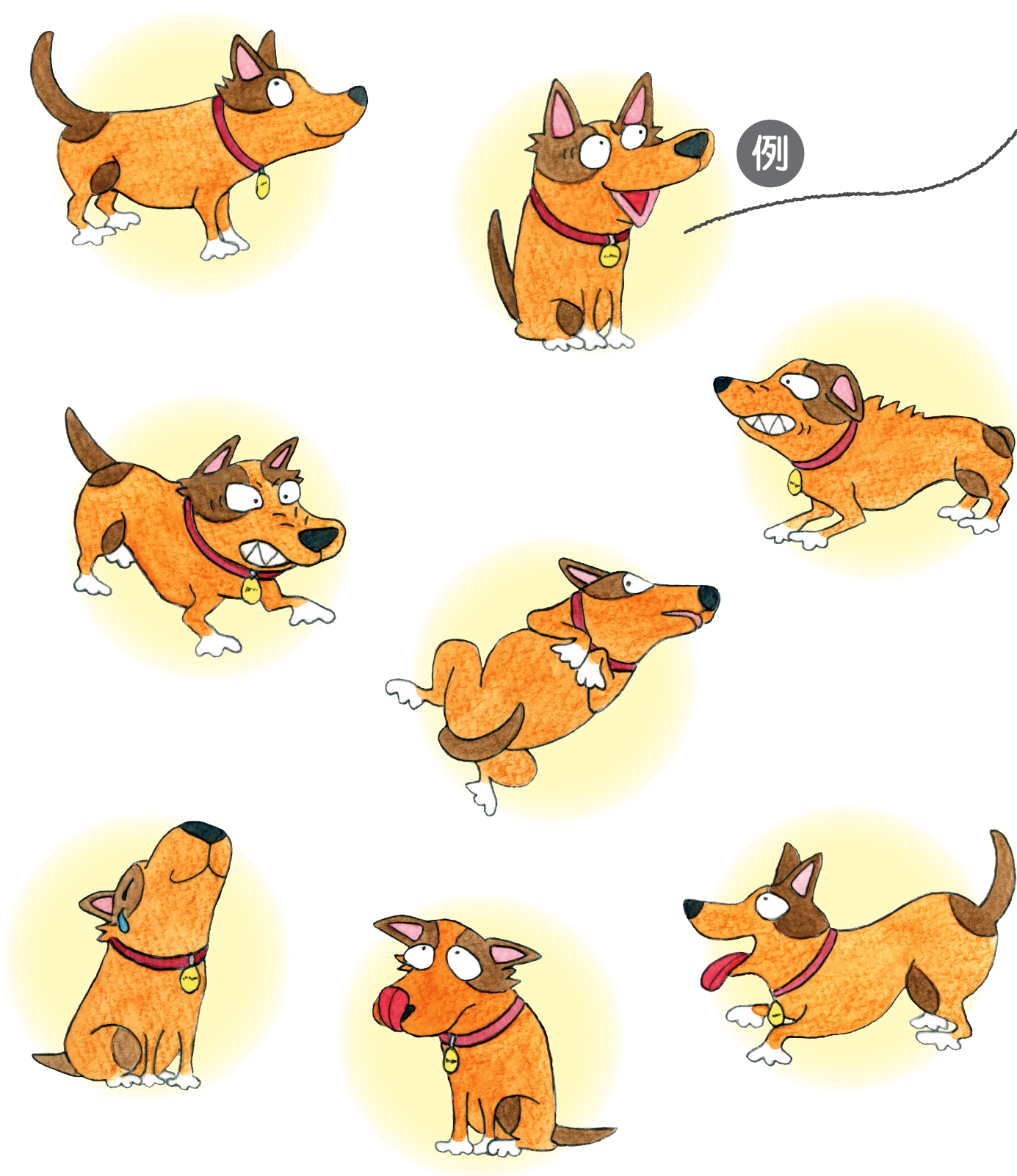
《シッポを観察する》

人間は、自分の感情やして欲しいことなどを言葉で伝えることができますが、動物はそれができません。病気やストレスなどで、いつもと様子が違うときには、飼い主が犬(または動物)の気持ちを想像して守ってあげなくてははいけません。

①～④の犬がどんなときにそうした気持ちになるのか、自分だったらどんなときにそんな気持ちになるのかを考えてみましょう。

どんな気持ち^{あらわ}を表しているかな？

ここにいろんな表情^{ひょうじょう}の犬のイラストがあります。それぞれの犬が、今どんな気持ち^{かんが}を表しているのかを考えて、線^{せん}でつないでみましょう。そして、そういう気持ちの犬^{たい}に対して、あなたならどんなことをしてあげるのかを考えてみてください。



※イラストがどんな気持ち^{ひょうげん}を表しているのか
線^{せん}でつないでみてね。



こんな気持ちのときには
あなたなら犬にどうしてあげますか？

うれしい
たのしい



かなしい
さびしい



こわい
ふあん
不安



おこ
怒っている